

よかとこい巡り

Vol.2

錦江町内の知ってるようで知らないスポットを紹介します。

今回は、旗山神社編です。



大楠

●大楠

名勝誌に「この社の前に日本の神木がある。内伽藍の神木は廻り九尋の楠、外伽藍の神木は廻り十尋の楠である。」と記されています。現在残っている大楠は幹廻り16メートル、根廻り43メートル、繁茂範囲は6.5アールに及び樹齢は推定1,000年です。根元の中は空洞になっていて、以前焚き火をして焼けた形跡が残っています。

境内に肥後国から良質の竹を移植した竹林があり、出陣の際は竹を外伽藍である楠に立てかけて武軍長久を祈願するのが慣わしだったそうです。

●伝説

日露戦争の時、大隅出身の一兵士が斥候の命を受け敵陣深く突入し偵察を終わり帰ろうとしたが友軍の方角を見失い途方に迷っていた時、白髪の老人が現れて日本軍の位置を教えてくださいました。そこで兵士はお礼を言い名前をきかせてくれるよう頼んだら「俺は池田の旗山だ」と言って姿が消えました。兵士は教えられた方角に向かうと無事に友軍のもとへ帰り着きました。

後日この話が郷土に伝わって、その白髪の老人は旗山神社の神の化身に間違いないということになり、大東亜戦争中は近在近郷、遠く県外からも祈願するものが多くいました。

●旗山神社

神社が建てられた時期ははっきりしていませんが境内にある楠の幹廻りなどから千年以上前の鎌倉時代といわれています。

池田地区にあるこの社は、古くから旗山大明神と呼ばれ、昔はこの地を禰寝院二十枝山と呼んでいましたが島津氏がこの山の竹を戦の旗竿としたため、「旗山」と呼ぶようになったと伝えられています。



鳥居



鬼神舞い

●神舞い

旗山神社には、秋に行われる礼大祭や正月行事で奉納される神舞いがあります。

神舞いは、中断していた時期がありましたが現在は伝統の灯を消さぬよう保存会の皆さんが受け継いでいます。奉納される際は是非足を運んでみてはいかがでしょうか。